

代替医療

最新ガイド

最近、注目されているがんの免疫細胞療法は1980年代後半から行われるようになってきました。体から取り出した免疫細胞を培養液の中で活性化し、数百倍の数に増やした後、再び体の中に戻す治療法です。

その効果は、どうなのでしょう。手術、抗がん剤、放射線治療などの標準的治療が効かなくなった患者に免疫細胞療法を行った場合、がんが小さくなったり、消えたりした人の割合は10〜30%程度とされています。

これは、抗がん剤の効果に比べると、若干低い数値になります。しかし、がんが小さくならなかったものの、大きくもならず、QOL(生活の質)を保ったまま、長期間生存できた患者がいたとする報告もあり、注目されます。



大野 智

臨床試験も行われています。

さらに、手術後に免疫細胞療法を行い、行わなかった場合と比べて、生存期間や再発頻度が改善するかを、卵巣がん、肺がん、肝細胞がんの患者で検討した報告があり、いずれも治療効果を認めています。

しかし、免疫細胞の加工・処理と、それを行う環境整備のためには多額の費用がかかります。免疫細胞療法を自由診療として病院で治療を受ける場合、患者負担の治療費が数十万から数百万円程度

将来はワクチン療法も

一方、90年代後半からは、がんワクチン療法という新しい治療法の開発も始まり、注目を集めています。ワクチンと聞くと、病気の予防というイメージがあるかと思いますが、ワクチンの投与で活性化される免疫の仕組みを病気の治療に応用しようという試みです。

現在、わが国では大学病院を中心にさまざまながんワクチン療法の臨床試験が行われています。また、欧米においてもがんワクチン療法の臨床試験が進められていて、一部の

がんでは臨床試験の結果、その有効性を認めたとする報告も出ています。このため、がんワクチン療法は、近い将来、通常医療として利用される日が来る日が期待されています。



免疫細胞はこんなふうに培養する(後藤重則・瀬田クリニック院長提供)

(金沢大学補完代替医療学特任助教授)